

マップネットが携帯端末用カーナビソフトを開発

デジタル住宅地図ソフト開発の株式会社マップネット（東京都中央区代表取締役遠藤久資、TEL 03-3516-0200）は、携帯情報端末用の新世代カーナビゲーションシステムをLinuxで開発した。

ソフトの名称は、GrandMap Car Navigation Systemで、従来のカーナビデータの数分の1という画期的なデータ縮小化技術により、基本道路ネットワークと背景地図を合わせて日本全国で70MB程度に抑えることに成功した。

これによりパソコンから地図を切り出して携帯情報端末に入れる必要がなくなり、端末単体でカーナビが利用できるようになった。

携帯情報端末のCPUは、カーナビ専用機やパソコンと比べて演算能力が数十分の1と劣るため、カーナビの最短経路探索や地図の回転描画などがハード的に困難であったが、独自の高速アルゴリズムを開発して実用レベルの時間で処理できるようになった。

なお、これまで車載のカーナビで取り外せるものは一部にあったが、携帯できて本格的カーナビ機能を満足させるものは初めてである。

カーナビ以外にもバイクナビ、自転車ナビ、徒歩ナビなどでの利用が可能であるが、携帯性が必要なビジネス向けのさまざまなアプリケーションに対応したシステム開発も計画している。

また、地図データの極小化技術を使いカーナビにデジタル住宅地図を搭載することも考えている。

マップネット社は、この技術を日本だけでなく海外に展開する予定で、手始めに中国市場に狙いを定め、11月6日から始まる上海国際工業博覧会2号館の横浜館（<http://sh.idec.or.jp/cn/sif/>）に出品し、関係会社である株式会社グランマップのブースで展示と説明を行う。

ねらい

汎用OSのLinuxを採用した理由は、カーナビを車に固定された装置にとらえるのではなく、1つの小型コンピュータと考えてパソコンのように利用者やソフト開発者がオープンにカーナビに参加できるコンセプトを作るためである。

携帯情報端末（PDA）は、携帯電話とノートパソコンの間に位置するが、両者に比べてモバイル機器としての特徴を十分発揮できないでいるが、直感的に操作でき携帯性にも優れたナビゲーションに特化すれば、新たな市場を開くことができる。

当初は、シンプルな基本的カーナビゲーション機能で製品化するが最終的には、住宅地図、山岳地図、海図などをネットで提供することにより、業務用から、ツーリング、山歩き、釣りなどレジャーの分野に拡大を図っていく。

2003年11月1日
株式会社マップネット
代表取締役 遠藤久資



← GPSアンテナ

音声ガイド付
PDAカーナビ
サンプル画面